

令和3年度 学校評価実施報告書

京都市立伏見南浜幼稚園

教育目標

心豊かにたくましく生きる子ども ~生涯にわたる人格形成の基礎を培う~

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none">・引き続き、全ての学年において、園生活の中で安定して活動する姿がみられる。また教職員との信頼関係を深め、安心感をもって主体的に活動する姿が、以前にも増して早期からみられようになった。・特に一人一人の子どもの『今』の姿をまずは教師も『ありのまま』に受け止め、個別的に、また学年全体できめ細やかに援助することで、『探求心』や友達との『協同性』の育ちがみられた。・今年度も制約が多い中ではあったが、昨年度の経験を活かし、以前にも増して保護者や地域の協力やあたたかな見守りの援助を得て、様々な体験を行ったり、代替の取組を行ったりすることができた。・次年度にむけては、保育の中での子どもたちの学びを保護者や地域に、より分かりやすく発信し、その内容については質量共に充実を目指す。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもたちが自由にのびのびと活動し、保護者も安心感を持っていることが感じられる。今後さらに、コロナ禍ではあるが、園の保育の発信を地域や保護者に行っていってほしい。・昨年度まで以上に、多様な子どもたちを受け入れることにより、一人一人の子ども『ならでは』姿を十分に受け止めて保育していることがよくわかる。・次年度こそは、地域行事等が再開できるようになったら、今までの2年間を取り戻すべく、さらに直接的な子どもや保護者との関わりがもてるようにしたい。・通常に活動が行えない場合でも、また今年度のように、方法や場所などを変えて、出来る限り、継続的に活動したり、『こころ』のつながりができるように支援していきたい。(米作り・芋畑などの取組など)

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	R 3・10・26	学校運営協議会（書面+聞き取り）
最終評価	R 4・3・18	学校運営協議会（書面+聞き取り）

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・昨年に引き続き、一人一人の「今、この瞬間」が充実するように、個々を丁寧に捉え教師の援助や環境構成を繰り返し行う。
- ・保護者の保育参加を計画し、子どもと一緒に活動する経験、その中で心を動かす機会をもつ。その際、子どもの心の動きや、気持ちなど内面の育ちを保護者に伝え、子どもを理解する関わりを意識する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 日々の幼児の姿の変容やエピソード検討
- 保護者アンケート『園生活の中で、様々な成長がみられたか』

中間評価

各種指標結果

○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討

- ・昨年度までの研修の成果を生かし、教職員が一人一人の子どもの『今』伸びようとしているところや、課題を的確に捉え、細やかな援助や環境構成を行っている。その結果、3歳児は自らの『ありのまま』の姿を發揮し安定する姿、4歳児は自ら経験の幅を広げ、思いきり動いたり、自分の思いを言葉で発揮したりする姿、5歳児は友達の思いを取り入れて、一緒にめあてをもって取り組む姿がみられるようになってきている。
- ・保護者の保育参加は11月から積極的に行う予定である。

○保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』

- ・100%の保護者がそう思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・感染症拡大に伴い、行事などの変更を余儀なくされたが、保護者の方の理解や協力を得ることができ、ほぼ例年と同様の「育ち」がみられた。
- ・前半期には保護者の方が園に入ることを避けていたことがあり保育参加はできなかつたが、ポートフォリオなどを活用し、各クラスの子どもの育ちを細やかに伝えてきた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・保護者の保育参加の機会をもつ。
- ・個別に、またクラスや園全体での育ちを引き続き、ポートフォリオやホームページ、おたよりなどで、視覚的に育ちを分かりやすく伝える。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・日々の幼児の姿の変容やエピソード検討
- ・保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・園行事等で、参観できる機会は少ないが、保護者や地域の声から、一人一人の子どもに即した保育が行われているという声はよく聞かれる。
- ・今後、感染状況を見て、運営協議会理事も必要に応じて、積極的に園の環境整備や、保護者支援にも携わることはできるので申し出てほしい。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・日々の幼児の姿の変容やエピソード検討特に一人一人のその時々の『今』の姿を、担任だけでなく、教職員全体で丁寧に捉えることで、子どもたちの安定感が増し、それぞれの学年なりの自然や音・光などに対する『好奇心』や初めてのことに取り組むときの『意欲』、また学年が上がるにつれて『一人一人の特性を理解した上での共同性の芽生え』などがみられるようになった。・保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』・100%の保護者がそう思うと回答	
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・教職員が子どもたちの姿を『まずは肯定的に』受け止めることや、行動の裏にある『内面』に目を向けることについての研鑽を積むことが、より深い安定感へつながっていっている。*さらにこれらの取組の『系統性』や『関連性』を探る必要がある。・保護者の保育参加は、コロナ禍ではあったが、かろうじて1度行うことができた。感染拡大防止対策を万全に講じつつ、保護者が自分の子どもと同い年の子どもたちの様々な発達の姿に接することができ、保護者にとって、子どもたちの『多様な存在を受け入れる力』や『協同する力』を感じる機会となった。・コロナ禍が続くことも考えられる中、保護者や地域への子どもたちの学びの家庭や育ちの姿などをより、的確にリアルタイムに伝える工夫をする必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・*の課題を受け、さらに保育の中の様々なエピソード検討の機会を増やす。(記述だけでなく映像も積極的に活用する。)・保護者の保育参加の機会の充実とともに、日常の保育の発信方法の模索を続ける。その際には常に保護者の思い(ニーズや潜在的な願いなど)も丁寧に受け止める。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・日々、教職員がそれぞれの持ち場で生き生きと働いている姿がみられる。この姿こそが保育の充実につながっている。また保護者の協力も得られている様子であるが、今後さらに地域と保護者をつなげる役割も幼稚園に担ってほしい。そのための援助を行っていく。・保育に使用する、製作素材の提供や、飼育栽培活動の支援などを引き続き行う。遠慮なく、その都度、園から働きかけてほしい。

(2) 幼小連携・接続について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none">・年長児を中心に「学びに向かう力(特に好奇心・集中力・持続力など)」の育ちの姿を捉える。・リモートも活用して、南浜小学校との教職員の合同研修や、園児と児童の交流を行う。	
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none">○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード○幼小合同の研修の回数○アンケート項目『自分の気持ちを伝えようとしているか』

『好奇心をもって遊んでいるか』

中間評価

各種指標結果

○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード

- 特に園内の自然環境を生かし、教師や友達と思いを交流して好奇心を高めている姿がよくみられるようになった。
- 特に、運動遊びや感触遊びの中で『今までの自分の殻』を自信をもって打ち破り、集中して取り組む姿がみられるようになった。

○幼小合同の研修の回数

- 感染症感染拡大により、幼小が合同で集合研修することは難しい状況であったが、オンラインを活用して、幼稚園での子どもたちの育ちや教職員の援助の在り方を伝えたり、文書や短時間の交流の中で、互いの『今』の子どもたちの課題や教職員の取組などを交流し、相互理解を図ることができた。

○アンケート項目

『自分の気持ちを伝えようとしているか』 100%の保護者がそう思うと回答

『好奇心をもって遊んでいるか』 100%の保護者がそう思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- 学びに向かう力の中で特に重視している『好奇心』『集中力』の育ちがみられている。
- さらに学年に応じた取組方や配慮点を探っていく必要がある。
- 直接集合する形態での『幼小連携』を行うことは難しかったが、新しい取組方を模索する必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- さらに5歳児では、友達同士の『高め合い』を、4歳児では、さらに集中力を高めていきたいと思われる子どももいるので、そのような子どもに対しては特にその子どもの興味や育ちに合致した活動を探ることを、3歳児は保護者に遊びの意義を的確に伝えることを大切にしていきたい。
- 可能な方法での教職員や子ども同士の幼小連携の仕方を探る。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード

○幼小合同の研修の回数

○アンケート項目

『自分の気持ちを伝えようとしているか』

『好奇心をもって遊んでいるか』

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 幼小連携も、感染状況により、実際に集合して行うことは難しい現状はよく理解できるが、教職員の交流や場所の共有は積極的に行ってほしい。
- 南浜地域運学校営協議会の存在もあるので、地域の『より大きなつながり』も活用しいつてほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード</p> <p>学年が上がるにつれ、子どもの『今』の実態に沿って、一人一人の子どもにとって『あともう少し頑張ったらできること』(最近接発達領域)に挑戦できる環境構成や援助を積極的に行うことで、特に『協同性』『自立心』『運動への意欲』『規範意識』などの育ちが促された。</p> <p>○幼小合同の研修の回数</p> <p>コロナ禍において、児童や園児・教職員の安全を第一に考え、集合して行うことは難しい状況であった。そのような中ではあったが、互いの児童・園児の状況や安全確保のための様々な対策などを、密に連絡を取り合い、教職員同士のつながりを保つことができた。</p> <p>I C Tを活用し、小学校の給食の様子や5歳児の劇遊びなどの様子を交流の機会をもつことができた。</p> <p>○アンケート項目</p> <p>『自分の気持ちを伝えようとしているか』 100%の保護者がそう思うと回答</p> <p>『好奇心をもって遊んでいるか』 100%の保護者がそう思うと回答</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">年長児最終時期において、一人一人の子どもの姿を検証する中で、年度当初や入園当初と比べて、「学びに向かう力 (好奇心・集中力・持続力など)」の育ちがみられた。特に自信をもって人前で話す・他児の思いに気付く・それぞれの『ちがい』を認めるなどの姿がよくみられるようになった。コロナ禍の限定された状況下ではあったが、幼小共に工夫し歩み寄る姿勢は強化された。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">さらに、子どもの実態を丁寧に捉えた上で、積極的に新たな環境や活動を取り入れたり、こども同士をつないだりする援助を行っていく。コロナ禍での『限界』はあるが、互いの『働き方改革』も意識しつつ、学習や生活面だけでなく内面の発達をつなぐ連携の一歩を踏み出せるようにする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">運営協議会理事の参加した5歳児の活動の中でも、積極性・探求心・協力する姿などがみられ、驚いた。この力を小学校以降にも引継ぎ、伸ばしていってほしい。運営協議会や、地域各種団体を通しての幼小連携の在り方も探っていく。特に小学校の多忙化につながることない『連携』の在り方も探ってほしい。引き続き、伏見南浜学区以外の子どもが増加し、その学区も広がりがみられるが、今後とも南浜小学校との連携を核として、他の学校へ進学する子どもの安心感も、高めていってほしい。

(3) 預かり保育について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none">日常的な担当教員と教職員との話し合いの時間を確保する。課題については、具体的な解決に向けての援助を明らかにし、実行に移す。定期的に、預かり保育の環境を見直す。
--	---

(取組結果を検証する) 各種指標

- アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』
- 預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証
- 預かり保育指導計画の見直しを進める

中間評価

各種指標結果

- アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』

100%の保護者がそう思うと回答

- 預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証

- 以前に比べ、利用者が増えたこと、教職員が活動内容や場の取り方を工夫したことなどにより、特に異年齢児同士の関わりが豊かになっている。互いに『安心感』や『自己有用感』を感じることができている。

- 預かり保育指導計画の見直しを進める

- 週案の立案は、必要に応じて担当教員以外の教職員も共同で作成し、子どもたちの実態に即したものになるようにしている。子どもの姿を的確に捉え翌日や次週の保育に活かしている。

自己評価

分析(成果と課題)

- 利用者は増加傾向にあり保護者の方の様々なニーズに細やかに応えられるように努めている。
- 預かり保育の利用3歳児が多いので、活動内容の見直しを行う必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- さらに異年齢児同士の関わりの中での育ちを育むための環境作りの工夫を重ねる。
- 年度末にむけて、週案の立案や記録をもとに、年間指導計画の見直しを丁寧に行う。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』

- 預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証

- 預かり保育指導計画の見直しを進める

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 18時までの預かり保育を実施していることは、ほぼ地域に浸透しきっていると思われるが、新規の学区への転入者など、周知が必要な場合もまだあると思われる。園からの回覧板やポスターなど、周知への努力も見られるが、さらに運営協議会理事も様々な会合などで広めていく。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』

利用実績のない保護者を除き、100%の保護者がそう思うと回答

- 預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証

- コロナ禍において、他学年の交流がもちににくい状況であったが、預かり保育の少人数の集団の中で、他学年との関わりが自然に深まった。このことが通常保育の中での、異年齢児への親しみや協同の姿にもつながっている。

- 小集団の中で、自分の力を発揮しやすい傾向のある子どもが、預かり保育時に思いきり自分の思いを表し周囲に認められた経験を重ねることで通常保育の中でも自信を高める姿が多くみられた。

○預かり保育指導計画の見直しを進める

- ・日々の記録を綿密に行い、担当教員以外の教員も参加して考察を行うことで、預かり保育指導計画の丁寧な見直しにつながっている。

自己評価

分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・年々預かり保育利用児は増加傾向にあるため、保育の内容や活動の流れの見直しも進めることができた。またさらにコロナ禍に置いての安全確保と子どもたちにとって『たのしい』預かり保育であることの両立の工夫を重ねた。さらに次年度以降も、利用児は増加傾向にあるため、従来通りではなく、子どもたち一人一人にニーズに応えた預かり保育の環境や活動の見直しを年度当初のみならず、月ごとの見直しを丁寧に行う。

分析を踏まえた取組の改善

- ・さらに次年度以降も、利用児は増加傾向にあるため、従来通りではなく、子どもたち一人一人にニーズに応えた預かり保育の環境や活動の見直しを年度当初のみならず、月ごとの見直しを丁寧に行う。
- ・預かり保育利用児の休息やコロナ感染状況によるクラス別に場所を分ける配慮などの工夫をさらに進める。
- ・令和4年度より開始される早朝預かり保育についても指導計画の加筆や、適切な環境構成、担任との連携の仕方などについての工夫を適切に行う。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・令和4年度からの早朝預かり保育開始は、幼稚園にとっても地域にとっても画期的な取組である。ただし、教職員の『働き方改革』も意識し、通常保育で充実した保育ができる大前提としておほしい。
- ・また引き続き、地域にも『預かり保育の実施』について周知できるよう支援を続ける。

(4) 子育ての支援について

具体的な取組

- ・一人一人の子どもの育ちの芽を見逃さず、適切な援助を行う。その際に担任を中心として、全教職員で関わる。
- ・子どもの理解に加えて、保護者の思いも十分に受け止め、必要な子どもへの具体的な支援を共に考えていく。その際に『目に見える』成長だけでなく『内面』の成長にも気付けるようにする。

～未就園児クラスについて～

- ・入園前の保護者の子育ての喜びとともに『たいへんさ』にも十分共感できる場とする。
- ・年間の計画や活動内容を示し、活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどで発信する。開設日を増やし、保護者のニーズにもこたえる。

(取組結果を検証する) 各種指標

○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証

○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信

○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証

中間評価

各種指標結果

○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証

- ・園児同様、一人一人の保護者の方の思いや願いを丁寧に受け止め、共に考えたり悩んだりする

ことを特に大切にしてきた。その中で保護者とともに子どもの育ちを喜び合える関係が築けてきている。

○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信

- ・感染症拡大により、地域の他の未就園児とその保護者の『居場所』との連携は難しかった状況であったので、必要な情報は郵送やホームページ、学区内回覧板や掲示板などで頻繁に開催状況や活動内容などを知らせるようにした。

- ・登録者数は昨年よりも増加している。

○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証

- ・未就園児クラス内での保護者同士の話し合いや、園の教職員との関わり、在園児の様子を見るこにより、未就園児クラスの保護者が育ちの見通しをもったり、大人の関わりのあり方を学んだりする姿がみられた。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・未就園児クラス利用者は増加しているので、南浜地域及び周辺地域における子育て支援センターとしての役割は一定果たすことができている。
- ・さらに0～2歳児の保護者の方々の子育ての不安や悩みに応えたり、子育ての楽しさを味わつたりできるような支援を充実させていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・引き続き、子育て支援事業の周知を徹底させる。感染状況に応じて就園地域の児童館や図書館にも案内の配下をお願いする。
- ・さらに、未就園児や在園児の保護者の方々自身の『自己肯定感』を高められるような、話し合いや日常の言葉かけ（相談）などに努める。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証

○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信

○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・南浜地域だけでなく、周辺学区の子育て世代のサポートとして、貢献していると思われる。さらに『口コミ』や『オンライン上』での広報活動に取り組んでいてほしい。運営協議会理事も、地域内外の会合で周知していきたい、
- ・未就園児クラスの参加者増を引き続き目指してほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証

引き続き、保護者の思いや願いを丁寧に受け止める努力を続けたことで、子どもの育ちを『できない⇒できた』だけで見るのではなく、一人一人の子ども『心の動き』を受け止める姿勢がより多く見られるようになった。このことが子ども自身の安定化や自信につながっている。

○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信

コロナ禍において、未就園児クラスでも「集合」して行う活動は極力避ける必要があった中ではあるが、未就園児クラスに参加したらどんな活動ができるかを具体的に知らせることで、多くの方が登録（60名）された。

○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証

具体的に、その年齢に適した遊びや、保護者と子どもとのコミュニケーションの取り方などについて、未就園児クラス内で実際に体験することができ、参加保護者の安心や育ちの見通しをもつことにつながっている。

自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none">子どもの育ちを最大限に保証するためには、保護者の方々との連携や協同を欠かすことはできない。今後さらに、保護者お一人お一人の思い（子育ての喜びや悩みなど）に丁寧に寄り添い、子どもの育ちを確かなものにする。未就園児クラスにおいても『はまっこほっこり広場』を開設し、未就園児とその保護者のコロナ禍での『居場所』としての役割を果たすことができた。さらに開催日の拡大の声が上がっている。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none">コロナ以前は本園において常に行われていた『保護者の方々同士のネットワーク』の中での学びや助け合いなどを、コロナ禍においても継続していけるような工夫を行う。（ＩＣＴネットワークなどの活用）未就園児クラスの実施日のさらなる拡大を行う。引き続き、子育てボランティアが担当する曜日と自由来園の形で行う曜日を設定する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<p>保護者の就労や介護など、幼稚園に通う家庭のニーズも以前と変わっていることがよく理解できた。今後も引き続き、特に未就園児クラスなどの機会でも支援できる場面があれば、申し出でほしい。</p> <ul style="list-style-type: none">引き続き、未就園児クラスの周知をさらに広げるために、配下スポットの拡大の援助を行う。（老人会・女性会なども視野に入れて・・・）

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none">園の取組を学区の諸団体にも行事予定などで発信する。運営協議会を中心として、子どもの活動を多様なものにする。今年度もコロナ禍においても可能な交流の仕方を模索する。
(取組結果を検証する) 各種指標

中間評価
各種指標結果

○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容

- 感染症拡大に伴い、地域の会合はほとんどが書面実施や、中止となったが、ほぼ月1回書面にて幼稚園の保育の様子や未就園児クラスの取り組みなどを発信している。

○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち

- 日頃の園庭の整備・芝生の育成などを通し、日常的に幼稚園の教職員以外の地域の大人の方との多様な関わりがみられる。
- 継続的な取組としては小学校とのコラボ企画として『稲の栽培』に取り組んでいる。年長児が主体となって行っているが、全園児が、運営協議会理事の方だけでなく、地域の方々の『あたたか

自己評価	いまなざし』と感じることができた。
	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 対面での交流をすることは難しいが、書面での園の取組の発信は積極的に行うことができた。 特別な『行事』や『取組』の中だけではなく、日常の中での様々な地域の方々との心の交流を活発に行うことができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での育ちや、園の取組を学校運営協議会や地域の方々に、さらに詳しく明確に伝え、新入園児数の増加にもつなげていきたい。
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症拡大の状況下ではあるが、お米やサツマイモの栽培や園庭の環境整備などを通して、地域と園児との『生』の触れ合いを積極的に行えている。引き続き、園からの要望に応じて、行動していくつもりをしている。
最終評価	
自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 <p>各学期に2～3回、学区自治連のご協力により、地域自治連所属町内の回覧板により園の取組や未就園児クラスについての情報の回覧を行う。また年2回町内掲示板により掲示も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営協議会のご協力で行う活動は単発的なもの・長期的な取組を含めて6つの取組が行われた。またその中では、園内や家庭でだけでは経験できない、園外の身近な方々との関わりが生まれ、様々な育ちがみられた。
	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域への情報発信は地域の方々の多大なるご協力のおかげで、回数的には満足できるものであるが、さらに園から伝えたい保育内容や、預かり保育の実施・未就園児クラスの取組などを、より分かりやすく伝えていく必要がある。 多くの取組が中止になる中『サツマイモ栽培』『コメの栽培』『田んぼ遊び体験』『十石船乗船体験』『(園独自の) ミニ花がさパレード』『花売りやさん』などの取組の中や、またその前後の活動の中で、子どもたちには、自然への親しみをもち時には驚く経験をする、地域の多様な自然環境に親しむ、地域の歴史への興味が芽生える、様々な人との関わりや応援をして頂く経験を重ねる、そしてなによりも、園や家庭以外の人々からのあたたかい愛情を感じる、などの育ちがみられた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> また町内会所属以外の学区の方々や周辺学区への働きかけの方法の模索も続ける。 様々な地域とかかわる経験をさらに、通常の保育との関連性を高め、保育の充実を図る。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事は大幅に少なくなり、ほとんど実施できていない状況であるが、幼稚園独自の地域との連携は、以前より充実してきている。 ・今後さらに、子どもたちの『実体験』を豊かにするための協力を行う。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	教職員一人一人が超過勤務時間を削減し、教育の質を一層向上させる。
	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域に『働き方改革』に対する理解を深める。 ・業務内容の優先順位をつける。教職員全員で業務を分担し、出来る限り勤務時間内に終業できるようにする。 ・可能な業務は電子化・ファイル化を行い、効率化を図る。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務時間の推移 ○年休や特休などの取得率

中間評価

各種指標結果	○教職員の勤務時間の推移
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間はほぼ昨年並みを推移している。 ・クラス担任の業務の中で他の教職員がサポートできる業務をセレクトし、他の教職員でカバーできるようにした。その中では特に校務支援員が業務支援を特に積極的に行ってきました。
	○年休や特休などの取得率
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の取得率のほぼ昨年並みを推移している。
	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・業務全体の量を減らす努力を行っているが、さらに、時間をかけて重点的に取り組みたい業務を見極め、メリハリをつけた時間配分を心掛ける。 ・引き続き、一人一人の教職員の業務を見通しをもって行うようにし、教職員全員で分担し、全教職員の超過勤務を減らす努力を行う。
分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教職員がさらに『見通し』をもって計画的に業務を行う ・園全体としても効率化できる業務の見極めを行う。(例可能な業務は電子化・ファイル化を行い、効率化を図るなど)
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務時間の推移 ○年休や特休などの取得率

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 様々な個別の対応や、感染症対応など、大変な状況ではあると思うが、教職員の心身ともに『健康』があつてこそ、豊かな保育であるので、さらなる効率化を図つてほしい。 そのために、環境整備など運営協議会としても支援していきたい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務時間の推移 今年度後半は特にコロナ対応のため、特に管理職は突然的に勤務時間が延長することがあった。しかし平常時は比較的早い時間に退勤しようとする教職員の意識は高まつた。 ○年休や特休などの取得率 昨年に比べて、取得率は上がつてゐる。

自己 評 価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・『働き方改革』の必要性は、地域に対しての理解は高まつてゐる。また保護者にも徐々に浸透してきつてゐる ・各教職員が、業務内容の優先順位をつける、いつその業務を行うのか?などの長期的な見通しをもつ、などの意識は高まつた。 ・業務の分担も昨年度以上に進み、担任が、勤務時間内に行える保育に関連した業務の時間が増加した。 ・電子化(昨年度までのデータをもとに立案・学年を超えて共通の教材やデータなどの共用など)はさらに進んでゐる。

	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方々にも、各教職員の職種による勤務時間の違いなどについても明確に知らせる必要がある。 ・なぜ「働き方改革」なのか?という意識を明確にもち、より豊かな保育のためにも必要なことであるという意識をさらに高める。 ・『ノー残業デー』の徹底、保育に関連すること以外の業務のさらなる効率化、園内教職員による業務の効果的な『助け合い』などを行う。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の健康が、子どもたちの笑顔に直接つながつてゐるという意識をもつて、改革を進めてほしい。 ・地域でも啓発していきたい。引き続き、業務の効率化のためのサポートが必要な場合は申し出でほしい。